

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100184		
法人名	有限会社在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい島郷	ユニット名	2Fフロア
所在地	静岡県沼津市下香貫清水2135		
自己評価作成日	平成31年2月15日	評価結果市町村受理日	令和元年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JigyosyoCd=2291100184-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成31年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・2階フロアでお一人様ずつの会話や調理のお手伝い、手作業等を中心に毎日の生活を生き生きと暮らせるように支援しています。調理レクではご利用者の潜在能力を活かし、皮むきや野菜切りを皆様に協力し合いながら作り、達成感を感じながらお食事しています。
・施設内の閉じこもり生活にならない様に外出レクリエーションに力を入れています。この一年間でもご近所への散歩の他、内浦漁港の大瀬祭り、御殿場の海老せんべいの里、秩父宮記念公園、沼津御用邸記念公園、修善寺竹林、牛伏公園、沼津港、三嶋大社、足湯がある湯らっく公園、楊原神社、連で有名な蓮興寺等に行き、その場で地域の方とお話をする機会がありました。また各ご利用者のADLレベルに合わせた支援やレクリエーションを計画・実行しております。地元住民に施設を開放し多くの方に足を運んで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員、また職員同士の信頼関係は厚く、何でも言える関係にある。職員に情報などを周知させる方法として、資料や会議録などの書類を全員に配布し書面に確認印をもらっている。管理者が作成した資料等は内容が詳細に書かれており、家族へ配布する月刊誌「島郷」や運営推進会議録も家族の様子が写真ですぐ分かるように配慮されている。利用者だけによる会議「ほっこり会」を発足し、思い思いに意見を出し合う場を提供している。地域との交流も良好で、子ども会の「流しそめん」に事業所の駐車場を提供したり、祭りに使用する机を公民館から借りたりして地域からの依頼や誘いかけで実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を毎朝の朝礼時に斉唱している。全体会議などで職員全体で目標や理念について話し合っている。	入社時はマンツーマンで指導し、普段のミーティングでもわかりやすく説明している。各ユニットで目標を立て、スキルアップのために必要な心技体のうち、事業所心得として現在は「心」について噛み砕いて説明している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治体などと交流を持ちボランティアやイベントを開催している。周辺散策・店舗への買い物へ出掛けている。納涼祭、2回のオレンジカフェ(認知症カフェ)の開催で地域の方と交流出来た。	緊急時の臨時避難場所として、3階の屋上に上がれるようにとの地域の要望に応え実現させている。子ども会の「流しそうめん」に駐車場を提供したり、祭りに使用する机を公民館から借りたり、地域からの依頼や誘いかけで実現している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催のお祭りを開き、模擬店・大道芸などを楽しみながら地域の方と交流しました。地元自治会のお手伝いをさせていただき、地元の納涼祭にも参加させていただきました。また地域側からも設備をお借りしました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回と同様にご入居者様家族様、地域包括、地元の自治会長様をお誘いし会議を行っている。得られた情報は事業所内で共有させて頂きサービスの向上を図りました。	会議では事業所での出来事を包み隠さずわかりやすくスライドで報告し、参加できなかった家族にも議事録を配布している。会議の後の交流の場として、事業所駐車場で「認知症カフェ」を開催することもある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご相談ごとや問い合わせを何度も行いご入居者様、ご家族様が困らないよう配慮している。生活保護の方の情報を定期的に報告している。	市長寿福祉課に運営推進会議の議事録や書類等を持参し、生活保護や介護保険についての相談もしている。管理者が地域のグループホーム協議会の代表の一人で、幅広く情報交換をして連携に繋げている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。ご入居時にご家族様へも説明している。フロア出入り口は時間を決め施錠しています。ご家族様へは安全配慮の為とご理解を頂くようにお話をさせていただいています。	3か月に1回の会議で指導を行い、確認している。拘束感が減るように、各ユニット入口の鍵をセンサー式に替えた。スピーチロックは気付いた時にその都度注意し合い、いきなり「待って！」と言わず利用者が納得できるように説明している。	職員に書面で取り組み協力について発信しており、身体拘束をしないケアに対する意識が高いことが分かる。「待って」や「ダメ」など発しやすい言葉についての理解や認識を更に高めることを期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアミーティングを毎月開催、フロアでの困りごとを統一介護について個別に話し合う機会をもっている。会社全体の『虐待防止』の取り組みで研修への参加、伝達講習を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員が弁護士による成年後見制度の勉強会に行き、職員に共有した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書はご家族様と読み合わせを行い理解を求めている。何でもご質問しやすい環境を整えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しています。面会時に要望や不備がないか面と向かってお聞きさせていただいています。ホームページ上でもご意見を寄せられる仕組みとなっております。	6か月に1回のケアプラン説明時や面会時に意見を聞くが、電話やメールで確認する家族もいる。月刊誌「島郷」を配布したり、家族の面会時に行事の写真を見ながら様子を伝えている。過去の衣類に関する苦情はチェックをすることで解消している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に話ができる環境づくりを行い、個別に意見を聞けるように面談や声を掛けています。代表の電話番号も緊急連絡網に入れ、電話ができる状況になっています。	職員の提案により、利用者による会議「ほっこり会」を発足した。職員の様子をみて個人面談を行い、意見を聞く機会を作っている。その際には、人のいない場所等で職員のプライドを保ちながら話すように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の条件に合わせ勤務を配慮しています。キャリアパスにて評価、能力や業務の責任で給与を決めています。資格のとり方、職位について周知し向上心につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職員の勤務実績が増え、介護力が向上してきている。フロアミーティングで勉強会を行い、知識の向上を勤めている。また、社内・社外の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との合同研修なども行っており、そこで交流や情報を吸収する機会を設けている。関係各所が主催する『講習』『交流会』のお知らせを周知し、参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様と入居時の面談や、入居から暫くは困っていることなどを伺いに訪室している。ご家族様には面会時にお話を伺っている。出来る限りご本人様やご家族様のご要望に添えるよう勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の相談や面談の際やご入居前にご家族様と密にお話する時間を作り、疑問や不安が無いようにひとつひとつ解決するように心掛けて接している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり情報収集行い、必要なサービスや援助の初期目標を決定し、援助しながらその人にアセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事・掃除・洗濯などを分担しそれぞれの役割を持ちお互いが支えあう生活を行っている。できなくてもお気持ちを大切にしながら生活している関係を満足感に変えることができるように配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の普段の状態や言葉などを面会時に細かく報告し情報を共有している。イベントや外出時の写真などをご家族様・ご本人様を交えて見て頂きたくさんお話している。施設でのご様子を定期的にお写真にして送っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会について、入居時にご家族様が了解であれば、ご友人様の面会も制限していない事をお伝えしています。今まで買い物に行っていた人は職員と共に出かけご自身の目と手で確かめて買い物をしていただいています。	利用者への面会は、事前に家族の了解を得た人に限定している。希望があれば自宅に帰ることもある。利用者全員が牛乳パックで手作りしたハガキを出したり、中には直筆の手紙を遠方の家族に出して喜ばれた人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い悪いを把握し、問題になる前に関わりを持ち解決している。個別対応と、全体対応にメリハリをつけている。(レクでもやりたくないものがそれぞれある事を理解している)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移動入居された方のご家族からご逝去のご連絡があり通夜に参列したことがありました。グループ内の他施設に移動された方には時々面会に行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時にその方の生活歴・趣味・特技等知る事から始め、こまめにご家族様・ご本人様とお話をして個別の対応を行っています。	利用者会議「ほっこり会」での意見を聞き取り、希望に沿って実現できるように努めている。生活歴の中から好きな事を見つけたり、職員は利用者との会話から情報収集したりしている。フロア会議で情報を共有し、支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴・職歴等をお尋ねし、何処でどの様に生活されていたか把握し、それを今後のケアに活かせるか検討し、レクの外出先・レクの内容を決めて実行しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックを行い数字にて健康状態の把握を行っています。その都度お言葉を掛けさせて頂き顔の表情や顔色。温度の確認などを行い変化にいち早く気付くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本は月に1回フロア会議にてモニタリングしています。状態や状況の変化にてご家族様や医療連携先と相談し方向性を決めています。	入居時は3か月に1回、状態が安定してからは6か月に1回、長期は1年に1回見直している。変化があった場合はその都度見直しをして、ケアマネジャーが状態に合わせ介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤者から日勤者、日勤者から夜勤者へ申し送りにて情報共有をしています。記録や気づきノートや日誌・個別申し送り簿にその都度気付いた事やどんな状況だったのかを記入して情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様よりの情報で、その方のニーズが施設で賄うことのできることを判断し、我々もご家族様の1人として様々なお手伝いを行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の今までの暮らしを把握し、その方に合わせ身体と心が安心して暮らせるようにと、その方が輝けるように得意なことを把握し行って頂き賞賛される環境づくりをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様がかかりつけの病院・医師で受診を受けられるように支援しています。細かい状況の変化を医師に伝えることにより適切な医療を受けられる様に支援しています。	利用者全員が事業所の協力医をかかりつけ医としている。月2回の往診があり、24時間体制で対応が可能である。かかりつけ薬局が事業所内の薬を管理している。かかりつけ医の判断で紹介状を書いてもらい、かつての病院に受診することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問の際、変化を報告し情報共有をしています。緊急時は医療連携の看護師に報告し指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に現病歴、既往歴、注意事項を入院先に提供。入院時に必要な物品など、こまめに訪れ入院先病院様に迷惑を掛からないように準備・追加をしています。退院時期に関しても早期に施設でできる範囲で受け入れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今までのケースでは、状況変化でご家族様に報告し方向性を決定、適時に医療連携先医師と話し合う機会を作り報告性を決めました。いずれも施設では対応困難で病院を選択し入院後お亡くなりになりました。看取りの実績は無い。	重度化や終末期に向けた方針は入居時に説明しており、その期に及んだ場合は家族と話をして確認をしている。職員は全体会議で配布される資料で看取り介護について勉強しているが、看取りの経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変については命が切迫している場合は救急車優先、他は管理者の指示にて行動を設定しルール通りに行動できている。定期的に社内研修を行い知識を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成、防災委員会を中心に定期的に訓練を行っている。地域での活動は沼津市よりの訓練で報告訓練を行っているが、地域では実施できていない。	年2回防災訓練を実施し、夜間想定訓練や消防署立ち合いで通報訓練も行っている。利用者が混乱しないように配慮しながら参加し、近隣にも事前に伝えてから訓練をしている。各階の非常口には持ち出し袋が掛けられていた。備蓄品は7日分用意されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	診察や肌の露出させる援助を行う際はしっかりと戸を閉めたり、パーテーションで見えないように配慮している。ご入居者様の呼び方も全て『さん』づけに統一、言葉遣いも十分に配慮している。できていなければ個別に指導している。	年配者に対して友だち感覚ではなく、呼称を「さん」づけにしている。トイレドアの開放にはパーテーションを使用し、目隠しとしている。会社全体で行う基礎介護研修に職員全員が参加し学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や不満のお話は表に出しやすい人間関係を作っています。可能なことは早急に対処し、不可能な事には『何故』をしっかりと説明し納得して頂けるようにお話しています。自己決定ができるように『待つ』事もしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れや身体を動かす事の基本ペースはありますが、業務的ペースにならないように心掛けている。できる限りの制限を持たせないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服やズボンなどの衣類を何枚か出しその中から選んで頂いて、その衣装について感想を言っています。目標はいつ外出しても恥ずかしくならないようにを目指しています。ご要望により衣類の買い物に出掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとのイベントや誕生日などの特別な日に見合った食事ができるように配慮しています。外食や皆で作ったものなど様々に楽しんで頂いております。準備や片付けも協力してその方のできる事を分担して役割を持たせています。	利用者の介護を優先して、食材は宅配サービスを利用している。食事のレクリエーションでは、材料を切ったり利用者ができる作業を行い、手作りの食事を楽しんでいる。弁当を持参する外出でも利用者の状態に合わせて細かく切って用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の摂取量を把握して、その方にあった食事量を提供、水分量は1日1500ml以上を目標としています。夏場の外出・入浴後にはポカリスエットを提供し失われた水分とミネラルの補充をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科医師の往診、歯科衛生士の口腔ケアを行っています。毎食後に全員に口腔ケアをして頂き確認をし職員にて仕上げを行っています。夜間は義歯をしている方は洗浄剤に付けています。定期的に口腔ケアの研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方に関しては排泄の内容を把握させていただき為にトイレに行った際に排尿・排便の有無を聴取しています。失敗のある方は個別にリハビリパンツ・パット・オムツなどで対応しています。声掛け排泄誘導もしています。	トイレでの排泄を基本としている。食事の後やおやつの前、3時間を目安に声掛けをする。が、個々の排泄パターンや様子に合わせた声掛けも行っている。利用者の能力に応じて、布パンツやリハビリパンツ・紙オムツ等を使用し、ポータブルトイレは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の体操を取り入れています。おやつにヨーグルトを出す時もあります。便秘傾向の方に関しては水分量のチェックを行い、便の性状や訴えを把握し必要時に医療連携医師に相談し下剤や柔下剤の処方を依頼しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回入浴できるように週間予定としてプランしています。どうしても入りたくない方に関しては時間を変え、人を変え無理強いしないように対処、入浴を見送る際は清拭・足浴・手浴に切り替え清潔を維持しています。	入浴は週2回を基本としている。入浴できない場合は清拭や足浴、重度の利用者にはシャワー浴や機械浴で対応している。利用者の希望に合わせて入浴剤を使用している。入浴を拒む利用者への対応は模索中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせ入眠介助を行っています。歩行不安定も呼吸抑制も考えられる為、出来る限り入眠導入剤を使用しない自然な入眠をして頂いています。入眠を無理に促さず自由に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って服薬チェックリストを用い間違いのない与薬をしています。お薬のセットは薬局または管理者が行い情報共有もリアルタイムで行っています。薬の概ねの用法を一覧にし、服薬チェックリストに添付して誰でも分かる様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の今まで楽しみにしていたことを把握し、継続できるように整えること。楽しみを拡大できるようにしている。1日の中の家事などを分担しそれぞれの役割を持たせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体調や天候を参考に外出を計画している。長距離の歩行が可能の方、近所までの方などお体の耐久性に応じ、日々散歩を実施している。遠距離の外出は施設車両にて行っている。(12月～3月は感染症対策で自粛している)ご家族様との外出も制限なく行われています。	近隣への散歩をはじめ、車で地域の公園や神社・観光地など外出の機会が多い。社会の一員として選挙に行く予定である。インフルエンザの季節は人混みを避けて近所へ散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関しては基本的にはお持ち頂かない様にしていますが、どうしてもの方は少額のお金をお持ち頂いています。日常品の買い物と一緒に選び購入して頂いています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じてTELやお手紙を書いたりする事ができるようになっています。その旨をご本人様やご家族様にお伝えしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝と夜勤時に掃除を行っています。転倒防止の観点から危険物を除去しています。音楽もみなさんのその時その時のご希望によって音楽を用意してリラックスできる空間づくりをしています。定期的に危険予知訓練を行い、日々居心地の良い空間を提供できるように心掛けています。	玄関には大きな花があり、季節に合わせた鉢植えの花も置かれています。居間は広くて明るい。職員が朝と夜勤帯に清掃を行っており、清潔感がある。利用者はお雛様の折り紙等で季節の飾りを作成して居間に飾っている。作ることが大事との考えから、全員が参加している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掲示板にイベントや外出の写真とコメントを掲示して皆さんに思い出して頂ける様に配慮しています。ご入居者様の中でも気の合う合わないがあり共有部での席順を配慮。机によって趣味の内容が違っているようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と相談し、使い慣れた馴染みの物を置いて頂けるようにお願いしています。足元の障害や防災に問題がなければどのようなものでも受け入れています。	クローゼット・洗面台・エアコン・ベッド・換気扇が備え付けで、布団は持ち込んでいます。壁に手すりが付けられ、安全に配慮している。エアコンの清掃は入退居時に専門業者が行っている。物は少なめで、壁に絵や飾りはなくシンプルな居室であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋が解らなくなる方には目線にお名前が見えるように部屋の前に表示させていたでいます。危険物(足元・洗剤・刃物・紐類)が目につくよう、手が届かないように、刃物は数もチェックし安全な環境を提供しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100184		
法人名	有限会社在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい島郷	ユニット名	3Fフロア
所在地	静岡県沼津市下香貫清水2135		
自己評価作成日	平成31年2月15日	評価結果市町村受理日	令和元年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2291100184-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成31年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・3階フロアでは、ご利用者様お一方ずつのニーズにあったケアに力を入れています。例としてご利用者様から「月一度買い物に行きたい」と言う要望に対し、職員が付き添い、買い物に出掛けています。 ・施設内の閉じこもり生活にならない様に外出レクリエーションに力を入れています。この一年間でもご近所への散歩の他、内浦漁港の大瀬祭り、御殿場の海老せんべいの里、秩父宮記念公園、沼津御用邸記念公園、修善寺竹林、牛伏公園、沼津港、三嶋大社、足湯がある湯らつく公園、楊原神社、蓮で有名な蓮興寺等に行き、その場で地域の方とお話をする機会がありました。 ・3階フロアでは、ご利用者様からの声によるレクリエーションを提供しております。月に一度「ほっこり会」という会にてご利用者様の自発的な声を聞き、実際のレクリエーションに取り入れています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を毎朝の朝礼時に斉唱している。全体会議などで職員全体で目標や理念について話し合っている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治体などと交流を持ちボランティアやイベントを開催している。周辺散策・店舗への買い物へ出掛けている。2回のオレンジカフェ(認知症カフェ)の開催で地域の方と交流出来ました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催のお祭りを開き、模擬店・大道芸などを楽しみながら地域の方と交流しました。地元自治会のお手伝いをさせていただき、地元の納涼祭にも参加させていただきました。また地域側からも設備をお借りしました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回と同様にご入居者様家族様、地域包括、地元の自治会長様をお誘いし会議を行っている。得られた情報は事業所内で共有させて頂きサービスの向上を図りました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご相談ごとや問い合わせを何度も行いご入居者様、ご家族様が困らないよう配慮している。生活保護の方の情報を定期的に報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。ご入居時にご家族様へも説明している。フロア出入り口は時間を決め施錠しています。ご家族様へは安全配慮の為とご理解を頂くようにお話をさせていただいています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアミーティングを毎月開催、フロアでの困りごとを統一介護について個別に話し合う機会をもっている。会社全体の『虐待防止』の取り組みで研修への参加、伝達講習を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員が弁護士による成年後見制度の勉強会に行き、職員に共有した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書はご家族様と読み合わせを行い理解を求めている。何でもご質問しやすい環境を整えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しています。面会時に要望や不備がないか面と向かってお聞きさせていただいています。ホームページ上でもご意見を寄せられる仕組みとなっておりご説明しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に話ができる環境づくりを行い、個別に意見を聞けるように面談や声を掛けています。代表の電話番号も緊急連絡網に入れ、電話ができる状況になっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の条件に合わせ勤務を配慮しています。キャリアパスにて評価、能力や業務の責任で給与を決めています。資格のとり方、職位について周知し向上心につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職員の勤務実績が増え、介護力が向上してきている。フロアミーティングで勉強会を行い、知識の向上を勤めている。また、社内・社外の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との合同研修なども行っており、そこで交流や情報を吸収する機会を設けている。関係各所が主催する『講習』『交流会』のお知らせを周知し、参加している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様と入居時の面談や、入居から暫くは困っていることなどを伺いに訪室している。ご家族様には面会時にお話を伺っている。出来る限りご本人様やご家族様のご要望に添えるよう勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の相談や面談の際やご入居前にご家族様と密にお話する時間を作り、疑問や不安が無いようにひとつひとつ解決するように心掛けて接している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり情報収集行い、必要なサービスや援助の初期目標を決定し、援助しながらその人にアセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事・掃除・洗濯などを分担しそれぞれの役割を持ちお互いが支えあう生活を行っている。できなくてもお気持ちを大切にしながら共に生活している関係を満足感に変えることができるように配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の普段の状態や言葉などを面会時に細かく報告し情報を共有している。イベントや外出時の写真などをご家族様・ご本人様を交えて見て頂きたくさんお話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会について、入居時にご家族様が了解であれば、ご友人様の面会も制限していない事をお伝えしています。今まで買い物に行っていた人は職員と共に出掛けご自身の目と手で確かめて買い物をしていただいています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い悪いを把握し、問題になる前に関わりを持ち解決している。個別対応と、全体対応にメリハリをつけている。(レクでもやりたくないものがそれぞれある事を理解している)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された方のご家族からご連絡があり通夜に参列したことがありました。グループ内の他施設に転居された方には時々面会に行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時にその方の生活歴・趣味・特技等知る事から始め、こまめにご家族様・ご本人様とお話をして個別の対応を行っています。ご利用者様の会議を行い要望を取り込んでいます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴・職歴等をお尋ねし、何処でどの様に生活されていたか把握し、それを今後のケアに活かせるか検討し、レクの外出先・レクの内容を決めて実行しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックを行い数字にて健康状態の把握を行っています。その都度お言葉を掛けさせて頂き顔の表情や顔色。温度の確認などを行い変化にいち早く気付くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本は月に1回フロア会議にてモニタリングしています。状態や状況の変化にてご家族様や医療連携先と相談し方向性を決めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤者から日勤者、日勤者から夜勤者へ申し送りにて情報共有をしています。記録や気付きノートや日誌・個別申し送り簿にその都度気付いた事やどんな状況だったのかを記入して情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様よりの情報で、その方のニーズが施設で賄うことのできることを判断し、我々ご家族様の1人として様々なお手伝いを行うようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の今までの暮らしを把握し、その方に合わせ身体と心が安心して暮らせるようにと、その方が輝けるように得意なことを把握し行って頂き賞賛される環境づくりをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様がかかりつけの病院・医師で受診を受けられるように支援しています。細かい状況の変化を医師に伝えることにより適切な医療を受けられる様に支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問の際、変化を報告し情報共有をしています。緊急時は医療連携の看護師に報告し指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に現病歴はもちろん既往歴、注意事項を入院先に提供しています。入院時に必要な物品など、こまめに訪れ入院先病院様に迷惑を掛からないように準備・追加をしています。退院時期に関しても早期に施設でできる範囲で受け入れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今までのケースでは、状況変化でご家族様に報告し方向性を決定、適時に医療連携先医師と話し合う機会を作り報告性を決めました。いずれも施設では対応困難で病院を選択し入院後お亡くなりになりました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変については命が切迫している場合は救急車優先、他は管理者の指示にて行動を設定し、ルール通りに行動できている。定期的な社内研修を行い知識を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成、防災委員会を中心に定期的に訓練を行っている。地域での活動は沼津市よりの訓練で報告訓練を行っているが、地域では実施できていない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	診察や肌の露出させる援助を行う際はしっかりと戸を閉めたり、パーテーションで見えないように配慮している。ご入居者様の呼び方も全て『さん』づけに統一、言葉遣いも十分に配慮している。できていなければ個別に指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や不満のお話は表に出しやすい人間関係を作っています。可能なことは早急に対処し、不可能な事には『何故』をしっかりと説明し納得して頂けるようにお話しています。自己決定ができるように『待つ』事もしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れや身体を動かす事の基本ベースはありますが、業務的ペースにならなように心掛けている。できる限りの制限を持たせないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服やズボンなどの衣類を何枚か出しその中から選んで頂いて、その衣装について感想を言っています。目標はいつ外出しても恥ずかしくならないようにを目指しています。ご要望により衣類の買い物に出掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとのイベントや誕生日などの特別な日に見合った食事ができるように配慮しています。外食や皆で作ったものなど様々に楽しんで頂いております。準備や片付けも協力してその方のできる事を分担して役割を持たせています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の摂取量を把握して、その方にあった食事量を提供、水分量は1日1500ml以上を目標としています。夏場の外出・入浴後にはポカリスエットを提供し失われた水分とミネラルの補充をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科医師の往診、歯科衛生士の口腔ケアを行っています。毎食後に全員に口腔ケアをして頂き確認をし職員にて仕上げを行っています。夜間は義歯をしている方は洗浄剤に付けています。定期的に口腔ケアの研修を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方に関しては排泄の内容を把握させていただく為にトイレに行った際に排尿・排便の有無を聴取しています。失敗のある方は個別にリハビリパンツ・パット・オムツなどで対応しています。声掛け排泄誘導もしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の体操を取り入れています。おやつにヨーグルトを出す時もあります。便秘傾向の方に関しては水分量のチェックを行い、便の性状や訴えを把握し必要時に医療連携医師に相談し下剤や柔下剤の処方を依頼しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回入浴できるように週間予定としてプランしています。どうしても入りたくない方に関しては時間を変え、人を変え無理強いしないように対処、入浴を見送る際は清拭・足浴・手浴に切り替え清潔を維持しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせ入眠介助を行っています。歩行不安定も呼吸抑制も考えられる為、出来る限り入眠導入剤を使用しない自然な入眠をして頂いています。入眠を無理に促さず自由に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って服薬チェックリストを用い間違いのない与薬をしています。お薬のセットは薬局または管理者が行い情報共有もリアルタイムで行っています。薬の概ねの用法を一覧にし、服薬チェックリストに添付して誰でも分かる様にしてあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の今まで楽しみにしていたことを把握し、継続できるように整えること。楽しみを拡大できるようにしている。1日の中の家事などを分担しそれぞれの役割を持たせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を参考に外出を計画している。長距離の歩行が可能の方、近所までの方などお体の耐久性に応じ、日々散歩を実施している。遠距離の外出は施設車両にて行っている。(1月～3月は感染症対策で自粛している)ご家族様との外出も制限なく行われています。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関しては基本的にはお持ち頂かない様にしていますが、どうしてもとの方は少額のお金をお持ち頂いています。日常品の買い物と一緒に選び購入して頂いています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じてTELやお手紙を書いたりする事ができるようになっています。その旨をご本人様やご家族様にお伝えしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝と夜勤時に掃除を行っています。転倒防止の観点から危険物を除去しています。音楽もみなさんのその時その時のご希望によって音楽を用意してリラックスできる空間づくりをしています。定期的に危険予知訓練を行い、日々居心地の良い空間を提供できるように心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掲示板にイベントや外出の写真とコメントを掲示して皆さんに思い出して頂ける様に配慮しています。ご入居者様の中でも気の合う合わないがあり共有部での席順を配慮。机によって趣味の内容が違っているようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と相談し、使い慣れた馴染みの物を置いて頂けるようお願いしています。足元の障害や防災に問題がなければどのようなものでも受け入れています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋が解らなくなる方には目線にお名前が見えるように部屋の前に表示させていたでています。危険物(足元・洗剤・刃物・紐類)が目につれぬよう、手が届かないように、刃物は数もチェックし安全な環境を提供しています。		